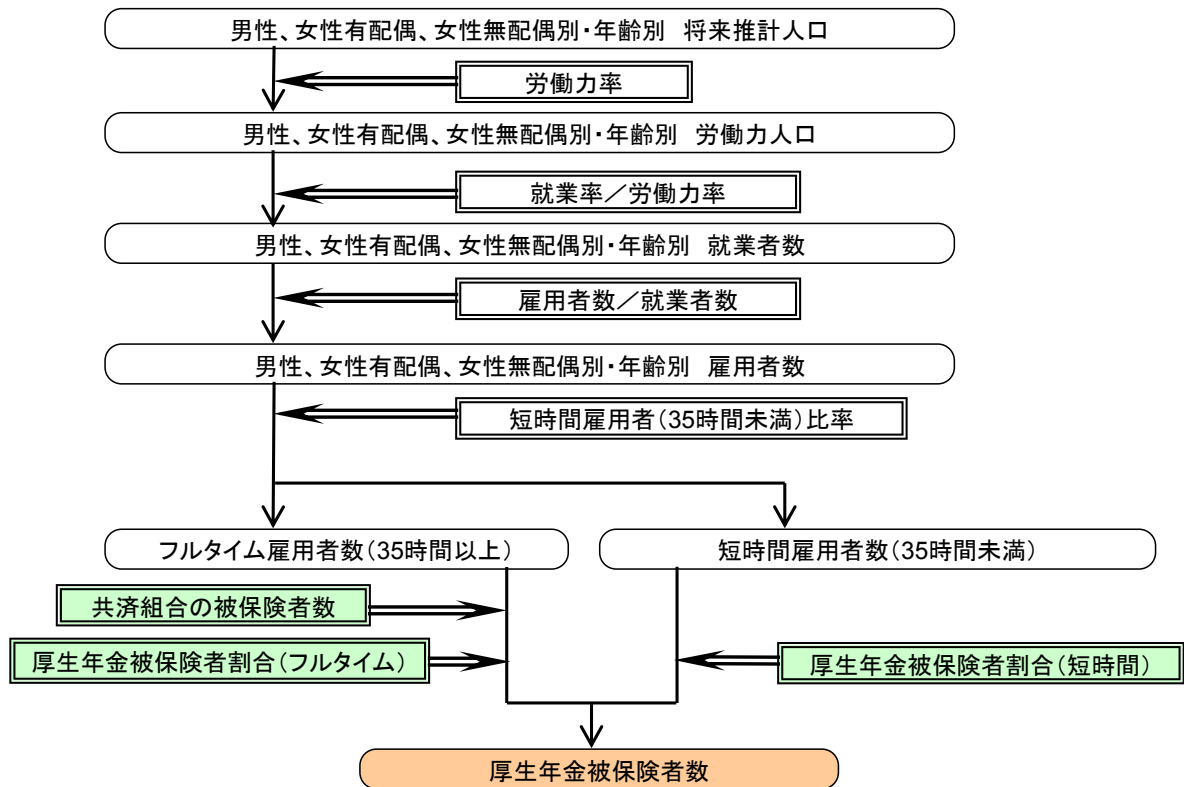


第 3 - 6 - 13 図 厚生年金被保険者数の将来推計の方法



すなわち、男性、女性有配偶、女性無配偶別及び年齢別に、

厚生年金被保険者数

$$= \{ \text{フルタイム雇用者数} \times \text{厚生年金被保険者割合（フルタイム）} \\ + \text{短時間雇用者数} \times \text{厚生年金被保険者割合（短時間）} \} \times \text{調整率}$$

ここで、厚生年金被保険者割合は、第 3 - 6 - 14 表に示す「平成 15 年就業形態の多様化に関する総合実態調査」の特別集計結果をもとに設定している。フルタイム雇用者については、週所定労働時間 35～39 時間及び 40 時間以上の特別集計結果を、2005 年国勢調査における雇用者の構成比率によって加重平均した 96.1%と設定している。短時間雇用者については、「労働力需給の推計（平成 20 年 3 月）」の「労働市場への参加が進むケース」において、平均労働時間が 2006 年の月間 90.2 時間から 2030 年に月間 110.1 時間まで増加するとの前提と整合的になるように、2005 年国勢調査における労働時間分布を基礎として第 3 - 6 - 15 図に示した労働時間分布を設定した上で、これと「平成 15 年就業形態の多様化に関する総合実態調査」の週所定労働時間別の特別集計結果を用いることにより、短時間雇用者の厚生年金被保険者割合を設定しており、この割合が 2006 年の 20.3%から 2030 年には 32.6%へと高まる推計となっている。